

作成日 2010 年 11 月 24 日

改訂日 2022 年 9 月 15 日

安全データシート

1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名	ムギレンジャー乳剤
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-5-2
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	除草剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	22776-09

2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

健康有害性	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	発がん性	区分 2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(中枢神経系、呼吸器系、 肝臓、腎臓)
		区分 3(麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(神経系、血液系、呼吸器)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

警告

皮膚刺激

眠気またはめまいのおそれ

発がんのおそれの疑い

中枢神経系、呼吸器系、肝臓、腎臓の障害のおそれ

長期にわたる、または反復ばく露による神経系、血液系、呼吸器の障害のおそれ

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き 【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

取扱後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師/中毒情報センターに連絡すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡すること。
 気分が悪い時は医師の診察/手当てを受けること。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 漏出物を回収すること。
【保管】 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。
【廃棄】 内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
 都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3. 【組成及び成分情報】

化学物質・混合物の区別 化学名又は一般名	混合物	化審法 No.	安衛法 No.	CAS No.
成分及び含有量				
<有効成分>				
プロスルホカルブ	46.0%		4-(6)-385	52888-80-9
リニュロン	11.5%	(3)-2193	4-(13)-44	330-55-2
<その他>				
有機溶剤、界面活性剤等	42.5%			
(コールタールナフサ)	17.8~19.8%)			65996-79-4
(メチルナフタレン)	5.0%(代表値))	(4)-80		90-12-0
				91-57-6
(ナフタレン)	2.0%(代表値))	(4)-311		91-20-3
(キシレン)	0.9%)	(3)-3		1330-20-7
(エチルベンゼン)	0.6%)	(3)-28		100-41-4

4. 【応急措置】

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡する。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ/取り除く。皮膚を水で洗う。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	直ちに医師/中毒情報センターに連絡する。口をすすぐ。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。 無理に吐かせない。

5. 【火災時の措置】

適切な消火剤	粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

保護具及び予防措置

6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

多量の場合、人を安全に退避させる。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、マスク等を着用する。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

取扱い

技術的対策

取扱いは、換気のよい場所で行う。

屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。

容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

取扱う場合は、局所排気、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱注意事項

みだりにエアロゾルが発生しないように取扱う。

接触回避

強酸化剤、強酸との接触を避ける。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

食品や飲料から離して保管する。

火気厳禁

安全な容器包装材料

製品の容器包装材料にて保管する。

8. 【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等

管理濃度

キシレン 50ppm

エチルベンゼン 20ppm

ナフタレン 10ppm

日本産業衛生学会(2021年版)

キシレン 50ppm、217mg/m³

エチルベンゼン 50ppm、217mg/m³

ACGIH(2018年版)

キシレン 100ppm(TLV-TWA)

エチルベンゼン 20ppm(TLV-TWA)

1-メチルナフタレン 0.5ppm(TLV-TWA)

2-メチルナフタレン 0.5ppm(TLV-TWA)

ナフタレン 10ppm(TLV-TWA)

設備対策

取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

取扱場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具

保護手袋

眼、顔面の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型)、保護面
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴、保護前掛け

9. 【 物理的及び化学的性質 】

物理状態	液体
色	黄色澄明
臭い	情報なし
融点/凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界	情報なし
引火点	127℃(クリーブランド開放式)
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	7.3(20℃、20%懸濁液)(測定値)
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	1.05(20℃)(測定値)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	非該当

10. 【 安定性及び反応性 】

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の温度及び保管条件では安定
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	熱、火花、裸火などの着火源
混触危険物質	強酸化剤、強酸
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 【 有害性情報 】

急性毒性(経口)	ラット LD ₅₀ : ♀ >2000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ラット LD ₅₀ : ♂ ♀ >2000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入)	情報が十分でない(分類できない)
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ:軽度の刺激性を示し、投与後 14 日まで全例に鱗屑が残ったため、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	ウサギ:軽度の刺激性を示したが、分類基準に該当しない(区分に該当しない)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 情報なし 皮膚感作性 モルモット:感作性なし(区分に該当しない)
生殖細胞変異原性	情報が十分でない(分類できない)
発がん性	区分 2 の成分を 1.0%以上含むため、区分 2 とした。
生殖毒性	情報が十分でない(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2(中枢神経系、呼吸器系、肝臓、腎臓)の成分を 10%以上、及び区分 3(麻酔作用)の成分を 20%以上含むため、区分 2(中枢神経系、呼吸器系、肝臓、腎臓)、区分 3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(神経系、血液系、呼吸器)の成分を 10%以上含むため、区分 2(神経系、血液系、呼吸器)とした。
誤えん有害性	情報が十分でない(分類できない)

12. 【 環境影響情報 】

生態毒性

魚類

コイ LC₅₀(96h):6.68mg/L

甲殻類

オオミジンコ EC₅₀(48h):1.42mg/L

藻類

緑藻 ErC₅₀(72h):0.13mg/L短期(急性):藻類の ErC₅₀ 値より、区分 1 とした。

長期(慢性):急性区分 1 であり、急速分解性および生物蓄積性が不明であるため、区分 1 とした。

残留性/分解性

情報なし

生態蓄積性

情報なし

土壤中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

情報が十分でない(分類できない)

13. 【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

14. 【 輸送上の注意 】

国連番号

3082

品名(国連輸送名)

環境有害物質(液体)(リニュロン、プロスルホカルブ)

国連分類

9(有害性物質)

容器等級

Ⅲ

海洋汚染物質

該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

火気厳禁。

国内規制がある場合の規制情報
応急措置指針番号

消防法、労働安全衛生法、船舶安全法、航空法の規定に従う。
171

15. 【 適用法令 】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

農薬取締法

第 22776 号

化学物質排出把握管理促進法
(化管法)

リニュロン(第 1 種)

メチルナフタレン(第 1 種)

ナフタレン(第 1 種)

プロスルホカルブ(第 1 種)(令和 5 年 4 月 1 日以降)

労働安全衛生法

第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物

コールタールナフサ(政令番号 175)

メチルナフタレン(政令番号 582-2)

ナフタレン(政令番号 408)

キシレン(政令番号 136)

エチルベンゼン(政令番号 70)

リニュロン(令和 6 年 4 月 1 日以降)

毒物及び劇物取締法

該当なし

消防法

危険物第四類第三石油類(非水溶性液体)

16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

事故に伴い急性中毒の恐れがある場合

公益財団法人 日本中毒情報センター 中毒110番

	一般市民専用電話 (通話料のみ)	医療機関専用有料電話 (1件につき2000円)
大阪中毒110番 (年中無休、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば中毒110番 (年中無休、9~21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の実施を対象としております。